インタビュー形式

新型コロナの影響を受け、社会全体が様々な形で「リモート（遠隔、という意味で、リモートワーク、リモート会議等と使用する）」を活用する中、職業人インタビューをリモートで行った、西都市立三財中学校3年生の取り組みについて、担当の小川先生にお伺いしました。

（西都市立三財中学校 総合的な学習の時間 担当 小川雄也先生）

小川先生、この度はインタビューをお引き受けくださってありがとうございます。
最初に全体像から伺って行きたいと思います。

ーはい。よろしくお願いします！

今回の取り組みは総合的な学習の5-6時間目を活用されていたと思うのですが、一連の取り組みはトータルで何時間くらいを使っているのですか？

ー23時間ですね。

そうなんですね。どういった経緯で職業人へリモートインタビューをすることにしたのですか？

ー元々は、職場体験学習や地域のお祭り（へそ祭り）にボランティアで企画運営側となることを予定していました。多様な大人との交流を通じて、子どもたちのキャリア観形成をサポートできればと考えていたんですよね。しかし、コロナでどちらも実施できなくなり、今後の見直しをしていたタイミングで、小学部の南教頭と、私の指導教官である松山先生を通じて、オンライン職業人インタビューのことを知ったのがきっかけです。

へそ祭りというお祭りが予定されていたんですね。そのお祭りでは、どのようなことが経験できる予定だったのでしょうか？

ーもし実施されていれば、ステージ進行、イベントプロデュースを経験できたと思います。それらを通じて、アイディア出しの実践もできたかもしれませんね。また、お祭りの準備を通して、お客様に目を向ける必要があるので、来場者のことを考え行動する「ホスピタリティ」にも繋がるかもしれません。

職場体験やへそ祭りを通じて期待していた経験について、今回の職業人インタビューで代替ができた内容もあると思いますか？

ーそうですね。想定以上にはカバーできていたのではないかと思います。時間制限の中でどのように進行していくのか（ステージ進行）や、1グループ6-7名のメンバーと一緒に質問を作っていく（アイディア出し）のプロセスもあったので、やってよかったと思っています。

異なった方法で職業人とのつながりを作るチャンスにもなったのですね。
それでは、ここからは具体的に当日の主な流れについてお伺いして行きたいと思います。

ー落ち着いてリモートインタビューに臨むため、最初に教室で生徒19名と県キャリア教育コーディネーターの福島さんでアイスブレイクを実施。その間に並行して職業人11名の方にはZoomに入っていただくようにしました。そのあと、生徒もZoomに接続。生徒19名、職業人11名がZoomのメインルームに集まり、共通のガイダンスののちに、それぞれ3つのグループにブレイクアウトルーム機能を使って分かれ、インタビューを進めました。

休み時間の一部	10分	アイスブレイク
	5分	教室移動
総合的な学習の時間5限目	15分	進行挨拶、パネリスト自己紹介
	20分	登壇者同士のテーマトーク
	10分	質疑応答
休み時間	10分	ー
総合的な学習の時間6限目	15分	進行挨拶、パネリスト自己紹介
	20分	登壇者同士のテーマトーク
	10分	質疑応答

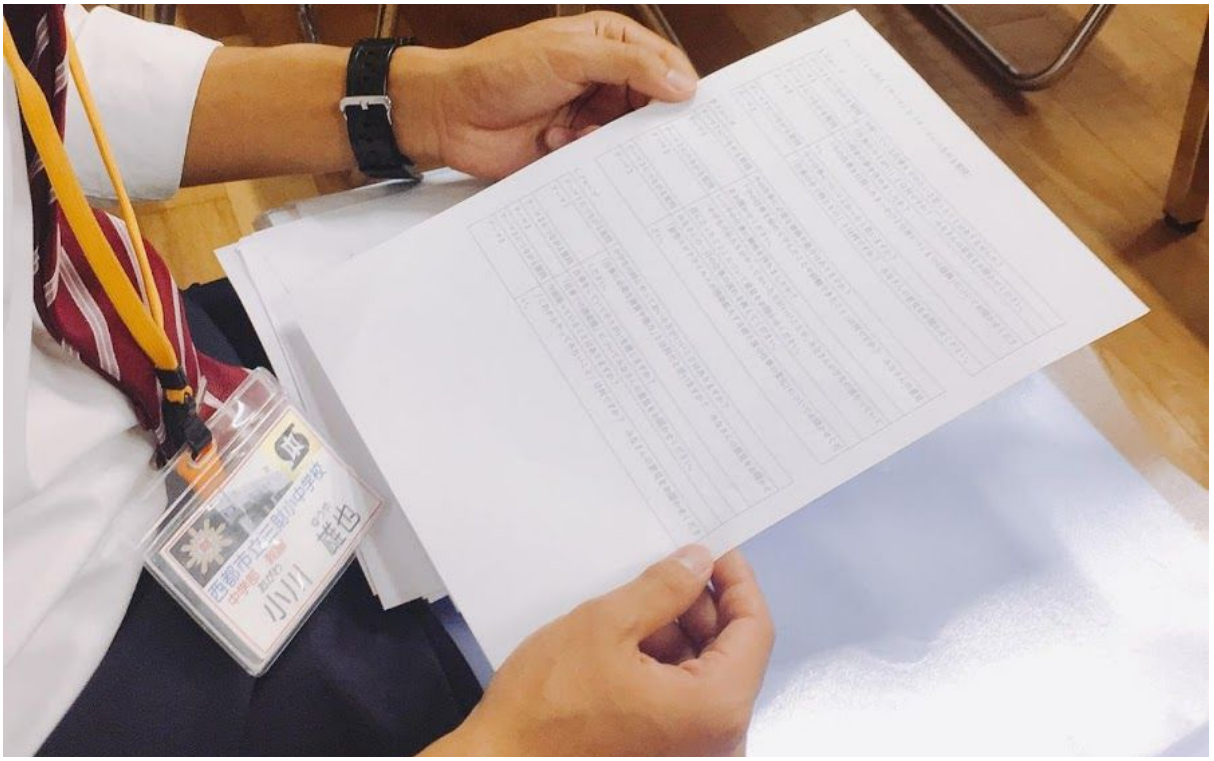
（当日の流れ。お昼休みを一部活用し、その後の5-6時間目の流れも計画にいれました。）

生徒があらかじめ設定した「テーマ」と「質問」について、どのようなものがありましたか？

ーそうですね。仕事の達成感ややりがい、また今の生徒たちが活かせるようなテーマをと考え、「学生の頃やっていて役に立ったこと」それを元に「やっておくと良いこと（大人になった今オススメしたい経験等）」についての質問もありました。また、「今就いている仕事をやめたいと思ったことは？」という質問もありました。

職業人からはどのような回答がありましたか？

ー想像していたより明確に、「勉強はやっておくといい」という回答がありましたね。また、ANAホールディングスで高校生向けの教育事業（イノ旅）を担当されている方から、より広い世界を見ることで多様な視点を養うことができる海外留学などは早めに経験できるといいというお話や、意外なところで「運動の習慣をつけること」というものもありました。これはフリーランスの職業人からの回答だったのですが、企業に就職するケースと比較すると、簡単に病気などで倒れることができないので、身体が資本だということを熱量高めに伝えられていましたね。



（テーマと質問のリストを改めて振り返る小川先生）

ここからは先生にフォーカスしてお話を伺いたいと思います。
今回の取り組みは、「初めての試み」だったので、先生方にとってもチャレンジだったと思うのですが、どのような思いで実施されたのでしょうか？

ー確かにチャレンジでしたね・笑。自分も他の先生もやったことがないことだったので。ただ、様々な計画が中止となったことで、生徒の中から「今年、中3じゃなかったらよかったのに・・・」という悲しい声も聞こえていたんです。それで、何かできることはないか？と、とにかくなんとかしてあげたい気持ちが強く、可能性を模索していたんですよね。

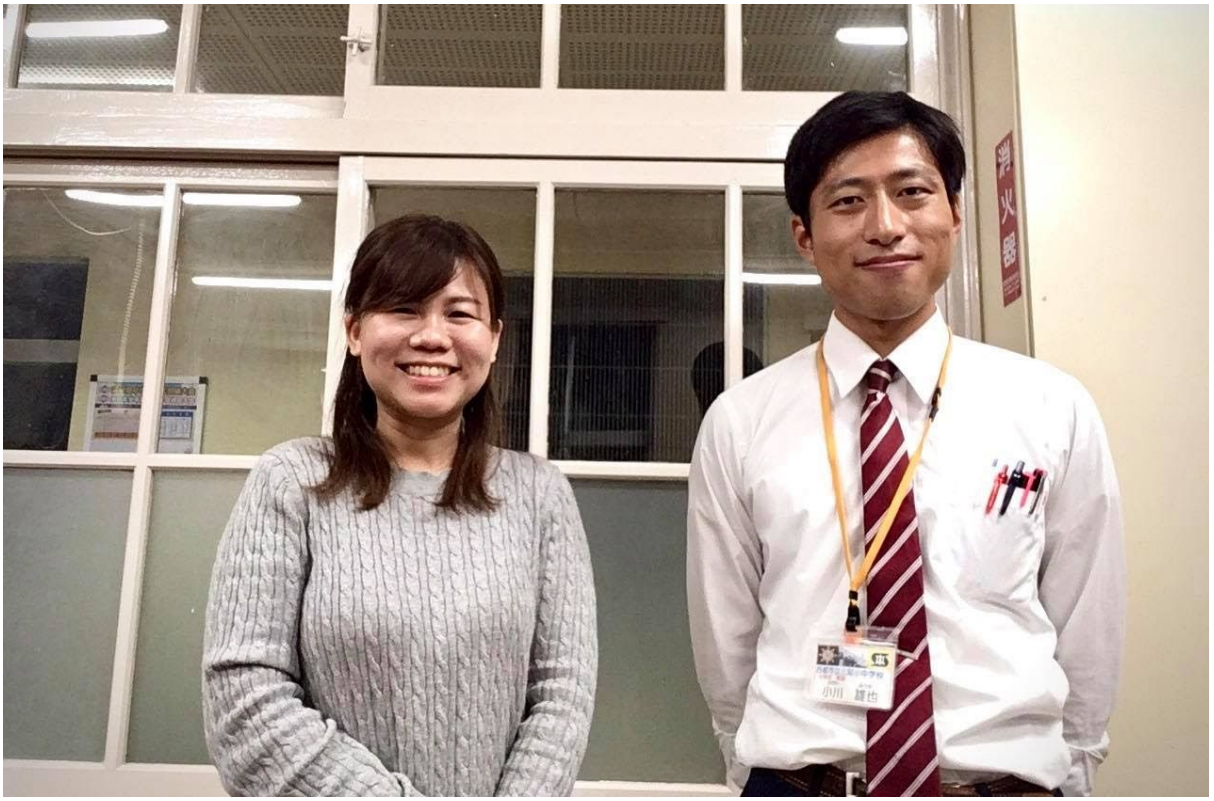
そうだったんですね。チャレンジできたのは、生徒たちへの思いだったんですね。

ーですね。それに尽きるかもしれません。
先ほど、職場体験や祭りの代替になるものを探していたというお話をしたのですが、実際にやってみると、職場体験以上に幅広く、深く話を聞くことができたというメリットもあるように感じています。

そうすると、来年の方針はどのようになりそうですか？この取り組みを続けていくイメージですか？

ーまだ来年の方針は決まっていないんです。ただ、新しいことはやっていかないといけない、という共通認識が学校内でもあります。今回実施したものを改善したバージョンで実施できればいいなと思います。私自身は、今年度「祭りを頼む！」と言われていたのに残念ながら実施できなかったので、来年はリアルな体験活動もできれば、という思いがあります。

そうですね！来年はリアルな体験の場もあるといいですよね！インタビューは以上です。小川先生、ありがとうございました。



（三財中 にて）

文責：福島